

平成24年度 喜来小学校教育活動に対する評価について

1. 評価結果について

※肯定的な評価（よくあてはまる・ややあてはまるの合計）

※否定的な評価（あまりあてはまらない・あてはまらないの合計）

(1) 保護者評価について

- ① 「学習や学校行事でさまざまな体験の場を取り入れている」、「安全教育に取り組んでいる」、「学習や生活態度について指導に努めている」、「子どもは学校に行くのが楽しみ」、「子どもや保護者の相談に積極的に応じている」「開かれた学校づくりを進めている」の学校教育の項目では肯定的な評価が80%以上と高い。学校教育に理解を示してくれており、今後の取組の励みにしたい。
- ② 「朝食をしっかりとらせる」、「友だちへの思いやりや生命の大切さの働きかけ」、「あいさつなどの基本的生活習慣の育成」の家庭教育の項目では肯定的な評価が90%以上と高い。家庭教育の充実ぶりが感じられ、家庭が子どもたちの教育の場になっていると考えられる。
- ③ 「読書をしている」の評価が最も低く、肯定的な評価が44%である。また、「あいさつや場に応じた言葉づかい」、「意見を伝える表現力」、「根気強く最後までやりとげる力」については、否定的な評価が25%近くあった。
- ④ 「分かる授業に努めている」・「いじめのない学級作り」「授業が楽しく分かりやすい」については、分からないとする答えも多かった。学校の様子がよく分からないとする正直な回答であると思うが、学校行事や授業参観以外の日でも授業を公開したり、ホームページを充実するなどして児童の様子や教職員の動き、具体的な取り組みを知っていただくための場や機会の一層の努力の必要を感じた。

(2) 児童評価について

- ① 学校が楽しいと82%の者が答えており、保護者とともに肯定的である。また、「分かる授業に努めている」や「学習・生活態度の指導」「いじめのない学級作り」については肯定的な評価が90%と近くあり、生徒指導面での教師の取り組みを子どもながら十分に感じ取っていると思われる。
- ② 保護者・児童とも低い評価項目は、「読書が好きで本をよく読む」、「思ったことや考えたことをよく発表」である。

(3) 教職員評価について

- ① 教職員は、「子どもは、学校へ来るのを楽しみにしている」は肯定的な評価が100%である。「いじめのない学級づくり」、「安全への指導」等、生徒指導面について高い

自己評価をしている。また、「学習態度の適切な指導」、「分かる授業に努めている」など学習指導面についても高い自己評価をしている。「読書」や「表現力の育成」については、保護者同様、低い評価となっている。

② 「授業が毎日楽しいと言っている」が子どもの評価同様、30%近くが否定的な評価である。

③ 保護者自身の高い評価が見られた「家庭での思いやりを育てる指導」、「朝食をとらせている」、「学校からの便りや文書をきちんと読んでいる」に対し、教師も家庭ですべきことがある程度できていると認めているが、「家庭での基本的な生活習慣の育成」については、保護者より評価が低い。この点については教師の思いを具体的に伝え、さらに連携を深めていく必要がある。

2. 学校評価から見える次年度に向けての課題と改善策

(1) 家庭・地域との連携

① 家庭の生活リズムの確立や家庭学習の充実を目指し、保護者啓発を一層進める。特に学校の教育活動を伝えるにあたり、そのねらいや方法を示し、学校経営計画との関連がわかるように工夫していく。そうすることで、保護者アンケートで「わからない」という回答がなくなるよう取り組みを継続していく。

② 児童・保護者・教員が一致した具体的な改善点は、「あいさつ・言葉遣い」、「読書」、「表現力」である。これらを全教育活動に位置づけ、地域の教育力を活用したり、家庭と連携しながら取り組みを継続していく。

(2) 学習指導・生徒指導の充実

① 基礎学力の定着と学力の向上のために「わかる楽しい授業」づくりに向けて一層の授業改善、指導力の向上を図る。そのために教育課程の工夫、評価の工夫を一層図るとともに研修の一層の充実を図る。

② わかる授業を展開し、学ぶことの楽しさを実感させることで積極的に表現しようとする態度を養っていく。

③ 子どもの発達段階に応じて、読書の楽しさを指導するとともに、計画的・継続的な読書活動を、家庭・地域と連携強化を図りつつ推進していく。

④ 「あいさつや言葉遣い」については、児童集会を活用したり委員会活動を活発にさせたりしながら人権尊重の視点から指導を繰り返し行う環境をつくるとともに全教職員が同一歩調で取り組んでいく。